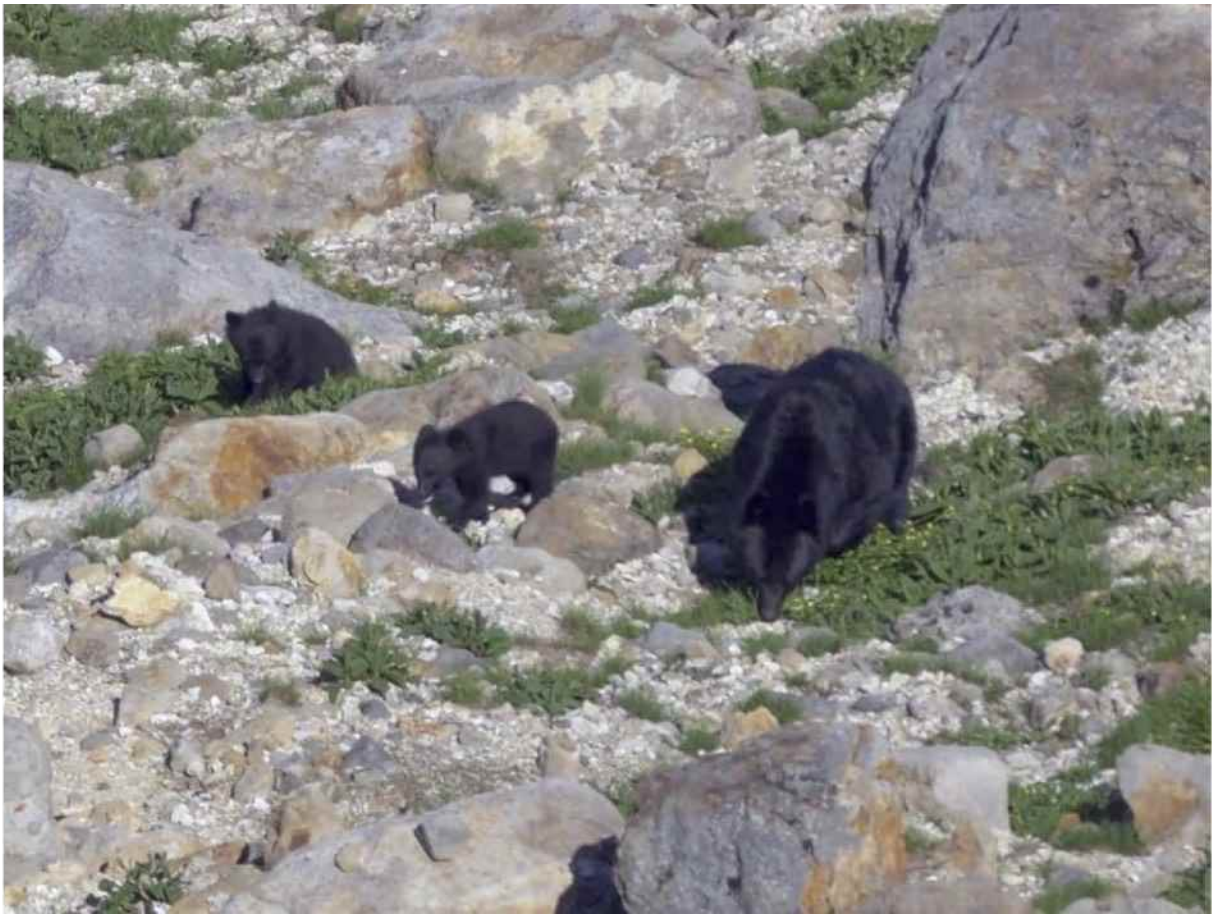
乗鞍岳のライチョウ

水田拓志
岐阜県乗鞍環境パトロール員

○水田　それでは，岐阜県乗鞍環境パトロール員の水田と申します。よろしくお願いいたします。楠田先生の流れから言うと，岐阜県民は乗鞍岳が嫌いなのかというような流れになるわけですけれども，乗鞍岳で毎日うろうろしています。そういう訳で，はじめに乗鞍岳の紹介から始めさせていただきたいと思います。乗鞍岳の畳平という所は，標高2702メートルと白山の山頂と同じ標高にあります。ちなみに立山室堂は2450メートルほどで，さらに高いところです。そこまで，長野県側，岐阜県側，バス，車で行けます。立山に行くには遠いし，乗鞍岳の方がバスの運賃もお安いということで，ぜひ，岐阜県の皆様，乗鞍岳の方にお越しいただければと思います。バスを降りれば，もう2700メートル高山帯で，1分歩けばコマクサ，5分歩けばこういう花畑，15分歩けばライチョウの接触ゾーンに入る事ができます。おまけに，日本最高所のバス停というような所で，誰でもいらっしゃれる身近な高山帯へ，ぜひお越しください。

こうした乗鞍岳ですが，ライチョウについては，保全施策はちょっと影が薄いのですけれど，乗鞍岳の環境全体を保全するために，平成15年よりマイカー規制が始まっています。それにともないまして，乗鞍環境保全税というものが創設されました。来山者から1人100円いただくというようなシステムでございます。これを主な財源としまして，各種乗鞍の環境保全施策が岐阜県の方でかなりしっかりと取られているというような状況です。どいうこと

をやっているかというと，専門機関による大気・酸性雨，植生変化というようなことのモニタリングの他，私ども環境パトロール員が活動しています。



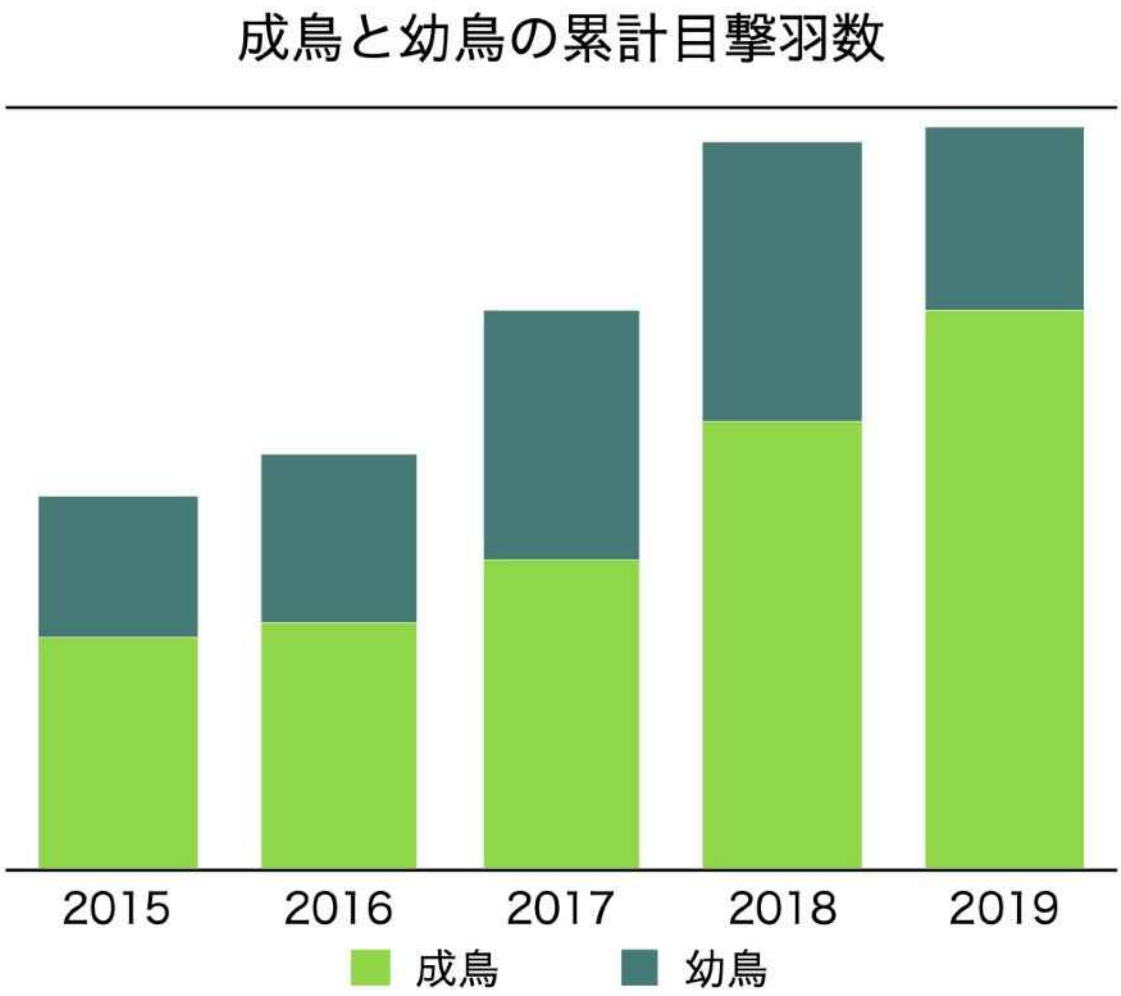
環境パトロール員の業務内容は主にマナー啓発とゴミ拾い，来山者への情報提供というような事柄です。変わったところでは，クマさんがたくさん登ってきていて，2009年に重体負傷者が出る一大事故がありました。実は重症者の一人が私なんですが，危ない橋と言いますか，ツキノワグマの危害防止対策なんかもやっています。ただ，ツキノワグマが危ないかと言いますと，慣れてくると，遠くから眺めている分には自然に暮らす可愛らしい生き物だということが分かってくると思います。ちなみに，畳平から1000m圏内にはここ10年ほどの間に，平均32件出没しています。大量出没年の2014年には87件で，1日に2件も3件もバタバタと出没するというようなこともございました。といったところが，通常の業務内容です。

環境パトロール員というのは，夏の間だけのアルバイトさんで，ライチョウの専門家でもなければ，動物の専門家でもないし，植物の専門家でもないわけですけれども，通常業務を行う傍ら素人ながら，自然環境のモニタリングも行なっています。気象や植物の分布状況，高山植物の開花フェノロジー，ハイマツの球果の豊凶，等々です。あと，猪・鹿・猿の出没状況なんかも調べています。中でもライチョウの生息状況については，重点的に調べています。環境パトロール員の業務範囲は，畳平バスターミナルからおおよそ半径1キロメートルの範囲で，中村先生はじめ，小林さんなんかがライチョウについて調べている範囲に比べればごくごく一部の範囲です。ただ，5月中旬から10月末まで一定の巡視路を毎日，誰かしら巡視しているので，きめ細かな情報収集が可能かと思っております。

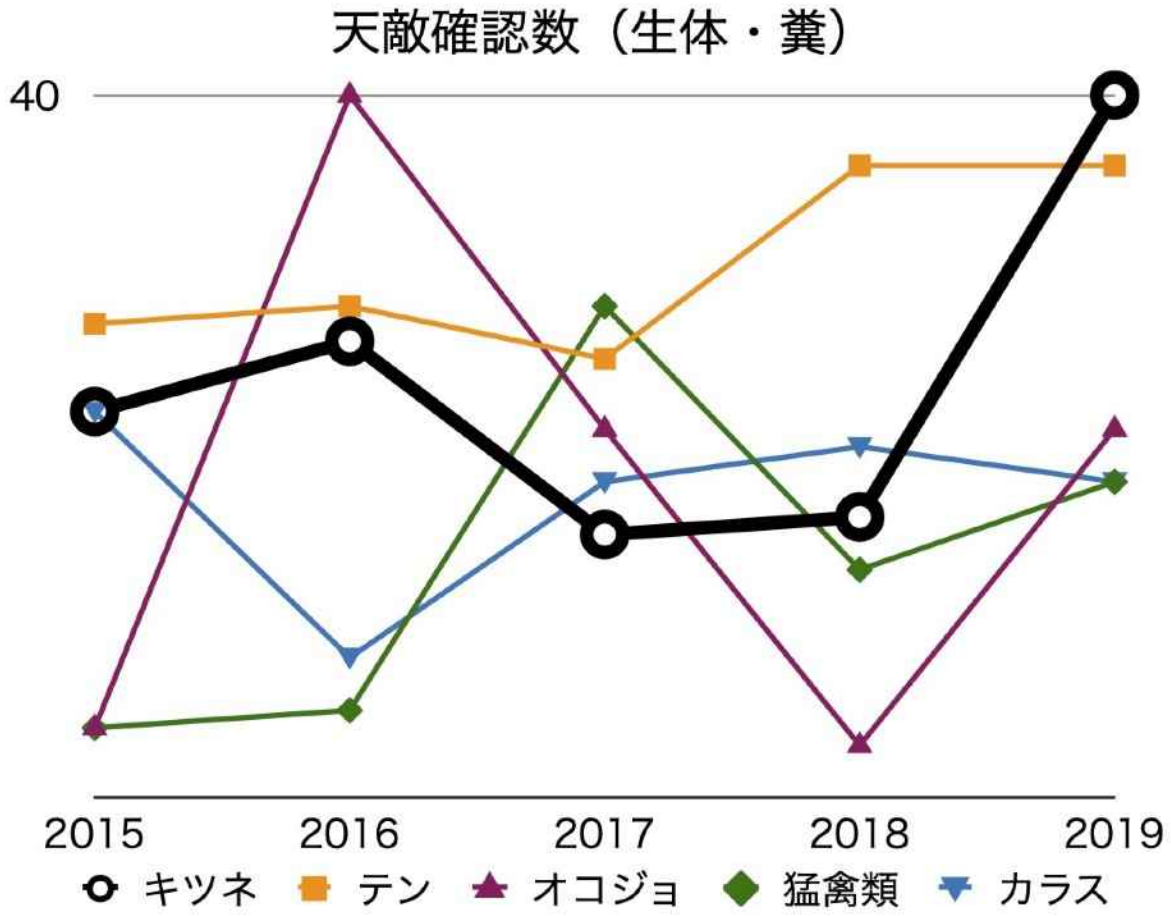
ライチョウの採食物の状況は，妙高のように大型のイネ科植物は今のところ増えていない。セイヨウタンポポといった外来植物は，分布していますが増えてはいません。シカは

2014年に2400メートル付近で成獣雄を1頭，サルは2014年に2000メートル付近で16頭の群が目撃されています。乗鞍の特徴として，イノシシの掘り返しが多いかなとみております。桔梗ケ原というバスターミナルから非常に近い場所の道路の傍で，ガンコウランやハクサンボウフウなど高山植物が，中小規模で掘り返され食害されたことがありました。その後は現状放置ということでしたが，ガンコウランはなかなか回復しませんが，ハクサンボウフウなどの草本類はすぐに生えてくるというような状況です。また，最近の事例で，ハイマツをひっくり返して根っこを食べるということが，不消ヶ池という，バスターミナルから非常に近いところでありました。

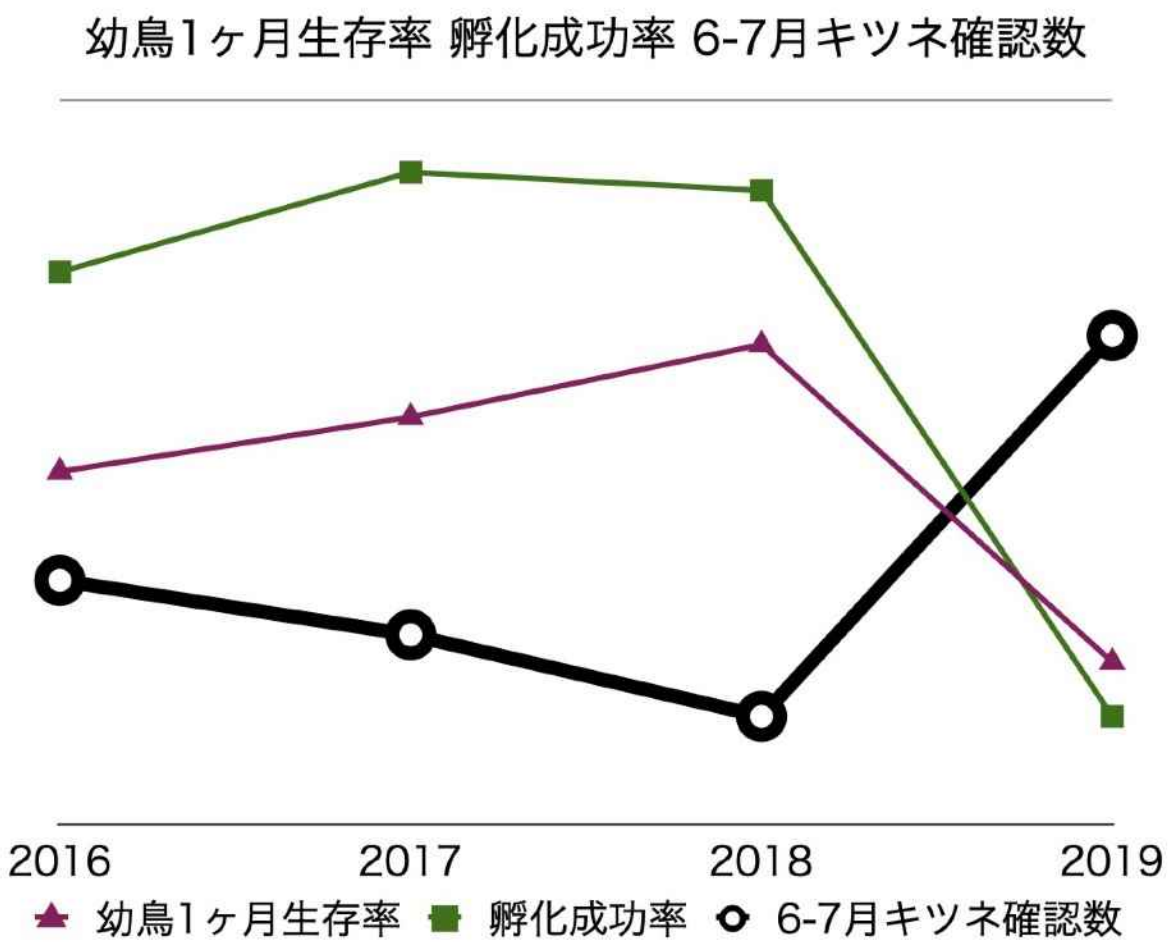
ライチョウ自体については何を調べているかというと，目撃情報を集め，足環の識別をして記録しています。それで，来山者へ最近はどのあたりでライチョウが見られていますよ，というような情報を提供しています。あと，なわばりの数と分布や天敵の状況を記録しています。というようなことをやってきて分かってきたことは，7月の気象条件が良ければ幼鳥の生存率が高まって，次の年のなわばり数が増えるということです。このグラフの太丸がなわばり数，この青四角が雨だった日の頻度ですけれども，2017年は雨天率が低くて天候が良かった。そうすると，翌年のなわばり数が増えた。2018年も天候が良かった。それで，2019年にはなわばり数が増えたというように，なわばり数の急激な増加がありました。2019年には，小林さんの意見によれば，乗鞍岳全体で，90を超えるなわばり数で，ほぼマックスなのではないかというようなことを聞いています。7月の気象と，成鳥と幼鳥の累計目撃羽数の関係を見ますと，2017年は非常に天候が良かった。それで，次の年の成鳥目撃羽数が急に増えた。2018年も天候が良くて次の年の成鳥目撃羽数が急に増えた。7月の天候が良いと幼鳥の生存率が高くなって翌年の成長目撃羽数が多くなるということです。とこ



ろが，2019年には幼鳥の目撃羽数が大幅に減りました。2019年の天候は17年18年ほどではないですが，15年16年に比べればはるかに良かったのに幼鳥目撃羽数が大幅に減った，つまり幼鳥の生存率が低かった原因は7月の天候以外にあるということです。他の原因とすれば，天敵ということになります。このグラフで，太いのがキツネで，他にテン，オコジョ，



猛禽類，カラス，がありますけれど，キツネは毎年多いです。テンも多いですね。オコジョは，年変動がすごくあります。猛禽類も年変動がありますけれど，それほどの数ではありません。カラスもそれほどの数ではないですが，6月に多くが目撃されます。19年にはキツネの件数が急に増えました。このグラフは6〜7月のキツネの件数と幼鳥の1ヶ月生存率，孵化成功率の関係を示しています。孵化成功率というのは1羽以上の幼鳥を孵化させることに成功したであろう，つがいの率ということで調べてみました。6〜7月のキツネの確認数が急に増えたことで，卵や幼鳥が捕食されたのではないか，というようなことが分かってきました。ただし，キツネを駆除したほうが良いという訳ではなくて，キツネがウサギを咥えて巣に戻っていく姿を見ると，キツネも生活かかっていることだからなぁと，考えてしまいます。



自然環境とライチョウの関係は，以上のようなことが分かってきたということですが，乗鞍岳は観光地ですので，人との関係はどうかというと，ライチョウは人に慣れています。登山道が恰好の砂浴び場になっていて，なかなか道を譲ってくれないといった状況です。ライチョウがいれば観光の方もマニアな方も静かに見守っているというのが実態です。ゴミも年間45リットル袋に3袋程度で，生ゴミなくて，タオルやお菓子の包装紙だとかがほとんどです。ペットの持ち込みも3年に1回くらいあるかないかで，ご遠慮くださいと声を掛けると，ほとんどの方は従ってくれます。人はライチョウの生息に影響していないと考えています。

最後になりましたが，環境パトロール員の事務所というのが乗鞍畳平にあります。環境パトロール員は，お客様大歓迎ですので，是非とも乗鞍岳へお越しください。ありがとうございました。

○福士　水田様，生息地から非常に貴重なご報告，ありがとうございました。